

【緑地の樹】

ヒサカキ

ヒサカキは山の斜面に普通に生えるそれほど高くない木で、緑地にもいっぱいある。たぶん、ずずなりになるその実を鳥が食べては落としていってくれるからなのだろう。でも地味な木なので、山道を歩いて気づく人は少ないのではないだろうか。

ヒサカキが自己主張するのは春の花の時期だ。よく見るとかわいい花がびっしりついているのだから、花が目立つのではない、その近くを通った時に、何とも言えない金臭い匂いがするので気づくのだ。鉄さびのような匂い・・・お世辞にも良い香りとは思えないが、虫たちにはうれしい匂いなのだろう、ミツバチたちもよく訪れるようだ。

秋、黒い実がびっしりつくが、これまた目立たない。でも私はこの実を見つけると、いっぱい摘んで帰る。これをつぶした青黒い汁を墨にして子どもたちと絵をかく

プロフィール：モッコク科 ヒサカキ属

山の斜面のそこここにあります

絵が赤くなる！ 子どもたちもびっくり、大喜び。

ヒサカキは、何に使われているだろう。関東ではサカキの代わりに神棚に供える家もあると聞く。私はツバキ科だと思って、ツバキの灰は染色の媒染に良いそうだからとヒサカキを燃やして媒染してみたことがあるがあまり成功しなかった。今回調べたら、以前はツバキ科とされていたが、最近の

分類ではモッコク科となったらしい。ツバキのようにうまく媒染できなかったのかもしれないのか・・・

(小川)

